知的障害者の支援欲求の構造的概念化

－主ケア提供者の認識を中心に－

○　三育大学校　尹　在榮
蘇　珍伊（中部大学・5274）朴　贊五（ソウル障害者自立生活センター）

キーワード３つ：知的障害、支援欲求、概念図研究

１．研 究 目 的

本研究の目的は、韓国の知的障害者の支援欲求(support needs)を、概念図(concept mapping)を活用して構造化することである。本研究を通して韓国国内の知的障害者の支援欲求の構成体を実証的に示すことで、知的障害者を個別的に支援する各体系のサービス提供者により実践的な準拠を提供することができると考えられる。

２．研究の視点および方法

概念図研究方法は、研究参加者が直接参加する集団活動（ブレーンストーミング、分類、評定）を通して質的及び量的データを収集し、多次元尺度分析とクラスター分析を用いて二次元の地図を生成することで、研究参加者の着想を構造化する研究方法である。これは、知的障害者の支援欲求を集める質的資料の収集（ブレーンストーミングを通した支援欲求の目録化）と、すべての参加者を通した量的資料の収集（分類(sorting)と評定(grouping)を通した支援欲求の構造化）の過程を混合した研究方法であり、知的障害者の支援欲求に具体的に直面している知的障害者の父母の研究参加水準を高め、妥当性のある支援欲求の構成体の探索に適切な研究方法である（Kane and Trochim, 2007）。支援欲求調査のためのブレーンストーミング及び分類、評定の作業は、2015 年 5 月ソウルで計 22 名の重度知的障害者（1 級 77.3%、平均年齢 21.1 歳）の主ケア提供者（母親）が遂行した。これらの２２名の主ケア提供者にはソウル市の各区に組織されている知的障害者父母会を通して研究参加を依頼した。

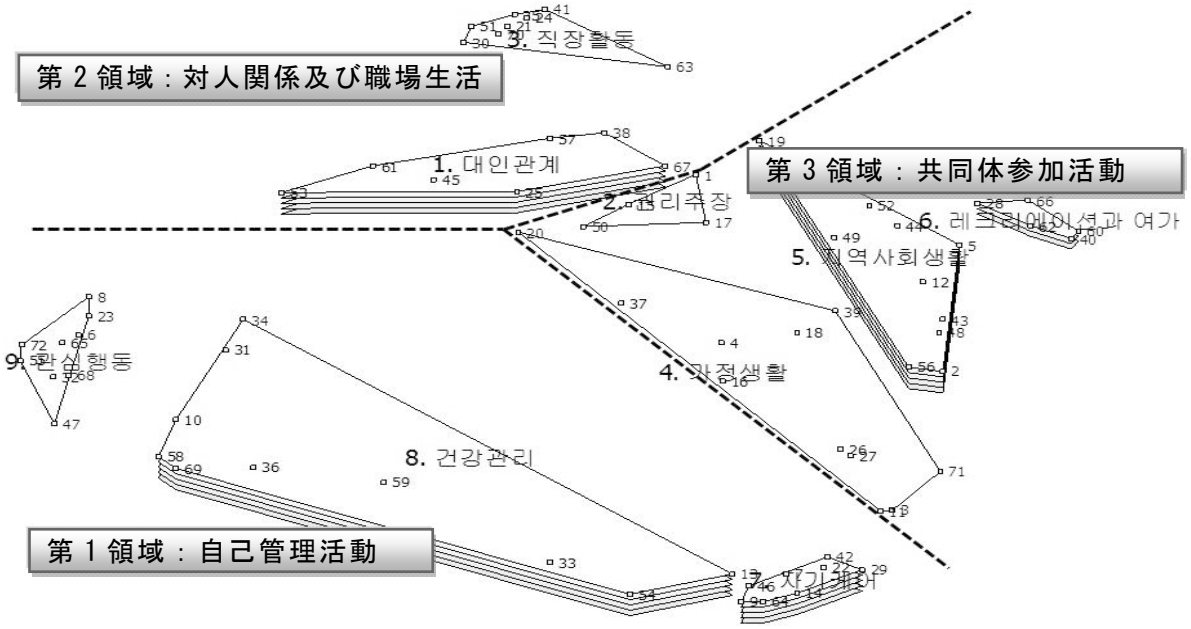
３．倫理的配慮

本研究は、研究参加者に研究参加同意書を用いて同意を得た上で行われた。また、途中で参加を希望しない場合、いつでも辞めることができることを説明した。なお、本研究に関する研究倫理については、第 1 研究者が所属している三育大学校の生命倫理審議委員会（IRB）の承認（SYUIRB2014-039）を得た。

４．研 究 結 果

本研究に参加した主ケア提供者 22 名の語り、分類、評定のデータをもとに、支援欲求

の項目を多次元尺度及びクラスター分析を行った結果、72 個の支援欲求項目を 9 つのカテゴリーで構造化することができた。各カテゴリーの項目内容により、9 つのカテゴリーを次のように命名した。1．対人関係、2．権利主張、3．職場生活、4．家庭生活、5．地域社会生活、6．レクリエーションと余暇、7．自己ケア、8．健康管理、9．関心行動である。これを図 1 の概念図に示したように、「自己管理活動」、「対人関係と職場生活」、「共同体参加活動」の 3 領域に分類することができる。



＜図1＞ 知的障害者の支援欲求の3領域の構造

５．考 察

本研究で得られた 3 領域の支援欲求を、ICF、SIS、そして I-CAN の構成体と比較してみると（表 1)、いくつか重要な脈略的統合性を持っており、これに基づいてそれぞれの概念を解釈し、理解する必要があると考えられる。

＜表1＞ 研究結果と他の支援欲求尺度との比較

領域	ICF	SIS	I-CAN
自己管理	1.学習及び知識の適用	C.生涯学習	**6.学習及び知識の適用**
	2.一般的任務と要求	A.家庭生活（一部）	7.一般的任務と要求
	5.自己ケア	**E.保健・安全活動**	2. 自己ケア
対人関係及び職場生活	**3.意思疎通**	F.社会活動（一部）	5.意思疎通
	7.対人関係	F.社会活動（一部）	**9.対人関係**
	8.主要生活領域	**D.職場生活**	**8.生涯学習**
共同体参加	4.移動	B.地域社会生活（一部）	1.移動
	6.家庭生活	A.家庭生活（一部）	3.家庭生活
	9.共同体生活、社会生活及び市民生活	B.地域社会生活（一部）	4. 共同体生活、社会生活及び市民生活

本研究で得られた支援欲求の構成内容の最も大きな特徴は、これらの支援項目が、「当事者に重要な（important to ~）内容」より、「当事者のために重要な（important for~）内容」に多少偏っていることである。